

生物シリーズ

幻のコガネムシ

アカマダラハナムグリ

Anthracophora rusticola Burmeister, 1842

姫路科学館 学芸・普及担当 宮下直也

アカマダラハナムグリはコウチュウ目コガネムシ科に分類される昆虫です（写真1）。体長は2 cm 弱で、和名のとおり赤茶色の胸部から腹部背面にかけて黒いまだら模様を持つことが特徴です。成虫は4月下旬から9月頃に見られ、クヌギやコナラの樹液に集まることが知られています。

■兵庫県における絶滅判定から再発見

兵庫県における本種の記録や報告は1980年代頃までは散発的に確認できるものの¹、その後報告がなく、兵庫県版レッドリスト2003（以下「県版 RL」）では「今見られない」、つまり絶滅したと判定されました。しかし、同年に朝来郡山手町（現・朝来市山東町）で再発見され²、さらには2004年に特異な生態の一部が解明されたことを皮切りに県内で断続的に生息情報が得られるようになったことで、2012年の県版 RL では「Aランク（兵庫県内において絶滅の危機に瀕している種）」へ変更されました。現在、環境省レッドリスト2020で「情報不足（DD：評価するだけの情報が不足している種）」、県版 RL2022で「Aランク」に選定されています。

■特異な生態解明

長らく本種の生態は謎に包まれていましたが、2004年の研究で、ふ化（卵→幼虫）から羽化（^{さなぎ}蛹→成虫）までの間、ハチクマの巣で育つことが明らかになりました³。以来、兵庫県でもコウノトリの巣内から⁴、県外や国外（韓国）では猛禽類（ワシ・タカの仲間）や水鳥などの巣や雛の胃から発見され、現在では12種の寄主が報告されています⁵（表1）。



写真1 アカマダラハナムグリ
（たつの市産）

表1 アカマダラハナムグリの寄主

分類	寄主
トキ科	トキ
コウノトリ科	コウノトリ
ウ科	カワウ
ミサゴ科	ミサゴ
タカ科	ハチクマ
	トビ
	アカハラダカ
	オオタカ
	サシバ
	ノスリ
	クマタカ
カラス科	ハシボソガラス

¹ 例えば：高橋寿郎（1984）．兵庫県のハナムグリ（兵庫県甲虫相資料・130）．てんとうむし．9：1-17．

² 兵庫県立人と自然の博物館（2009）．展示します！コウノトリの巣から見つかったアカマダラハナムグリ．
（https://www.hitohaku.jp/blog_old/2009/06/post_327/ 閲覧日：2025年4月23日）

³ 榎原寛・阿部學・新里達也・早川浩之・飯嶋一浩（2004）．ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ．甲虫ニュース．148：21-23．

⁴ 例えば：那須義次・村濱史郎・三橋陽子・大迫義人・上田恵介（2010）．コウノトリの巣から発見された鞘翅目と鱗翅目昆虫．昆虫．ニューシリーズ．13（3-4）：119-125．

⁵ 例えば：岸本恵子（2019）．トキの巣内雛の胃内容物から検出されたアカマダラハナムグリの成虫．昆虫．ニューシリーズ．22（4）155-158．

■姫路市での初発見

2024年5月11日、姫路市石倉峯相^{ひめじ ししくらみねあい さと}の里において当館のサイエンスエキスパート講座「昆虫の達人」の活動中に、講師の一人であった花房高志^{はなふさたかし}さんがクヌギの樹液をなめていた本種を発見しました（写真2）。姫路市では初めての発見であったため、兵庫の昆虫雑誌「きべりはむし」で報告し⁶、記者発表も行ったところ、2024年8月5日「市内で『幻のコガネムシ』初確認」の見出しで神戸新聞に掲載されました。



写真2 「昆虫の達人」で採集されたアカマダラハナムグリ

■新聞の効果でさらなる発見

新聞掲載から程なくして、記事をご覧になった方からのアカマダラハナムグリの持ち込みが2件ありました。1件目は相生^{あいおい}市内でたまたまシラカシの樹液をなめていた本種を2024年5月8日に採集し、飼育していたということで水田啓之^{みずた ひろゆき}さん（相生市）から生体を直接お持ちいただきました。水田さんからは他にも播磨^{はりま}地域の甲虫^{こうちゅう}標本を寄贈いただいております、当館で整理・公開を進めています。2件目はたつの市内で「切ったスイカを畑に置いてカブトムシやクワガタムシをおびき寄せようとしていたところ新聞に載っていた虫が飛んできた」と瀧北聖七^{たききた せな}さん・俊志^{しゅんじ}さん（当時、それぞれ姫路市立安室東^{やすむろひがし}小学校5年・2年）から同年8月13日に採集した生体をお持ちいただきました（写真1）。いずれも相生市とたつの市では初めての発見で、貴重な記録であるため、今後「きべりはむし」で報告する予定です。

■探してみよう！アカマダラハナムグリ ～兵庫県内における新発見の可能性～

アカマダラハナムグリの記録が少ない理由はいくつか考えられます。①恐らくそもそもの個体数が多くない：寄主となる鳥類の巣がなければ繁殖できないため。②成虫がまとまって見つからない：例えば特定の植物だけを食べる昆虫のように、植物さえ見つければ一か所または周辺で毎年見つかるわけではないため。③探している人が少ない：極端に大きくもなく、色柄が派手でもないため。これらは、少数の熱心な研究家だけでは広い兵庫県をくまなく調査しきれない現状を反映しており、兵庫県の昆虫相解明への道のりを困難にしています。しかし、少しでも多くの方が本種を知って気に留めるようになれば、身近な場所から発見が増える可能性があります。現在、未発表含め兵庫県41市町中18市町で本種の記録があるため（図1）、残り23市町での発見は新発見ということになりますし、発見済みの市町でも記録数は少なく、貴重な記録には違いありません。これからの季節、本種の成虫は本格的な活動時期に入ります。みなさんもアカマダラハナムグリを探してみませんか。

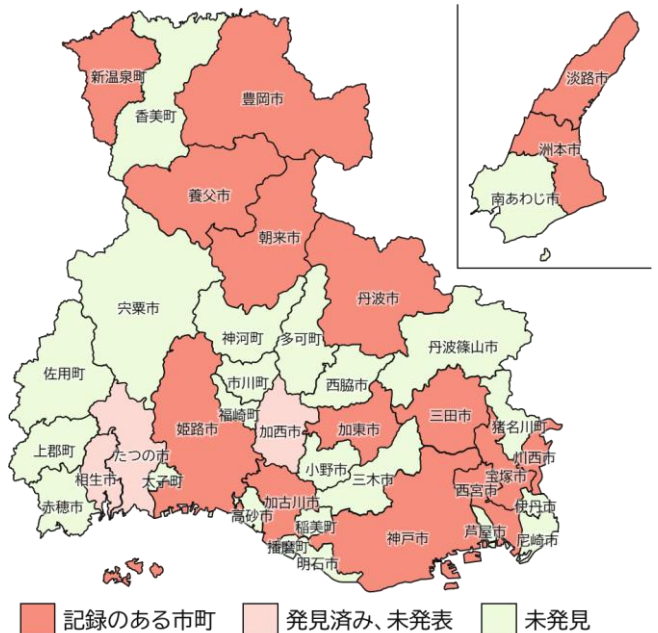


図1 兵庫県におけるアカマダラハナムグリの記録（県版RL2022の記録に文献記録^{1,6}と科学館の標本記録を追加）

⁶ 花房高志・榮藤亘輝・宮下直也（2024）．姫路市内でアカマダラハナムグリを採集．きべりはむし．47（1）：67．